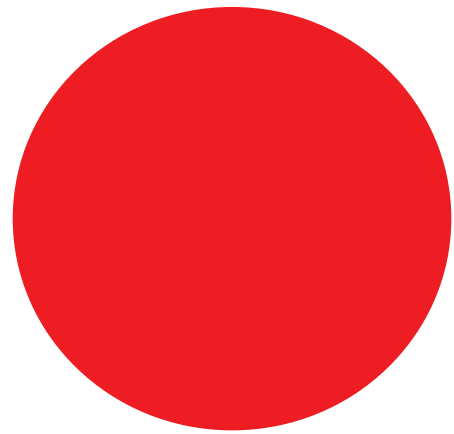


多岐の文化に
あふれる
日本の文化の
よさを

伊藤大博



けふ
このへに



「比較文化」の日本語教員養成

日本を、発信。

国際文化学部 比較文化学科の日本語教員養成課程で日本語教員をめざしてみませんか。

母なる日本語 を世界に伝える。

(国際文化学部 英語文化学科の学生も同課程の受講が可能です)

〈お問い合わせ〉 広報室：Tel 045(786)7049 Fax 045(786)7862

kouhou@kanto-gakuin.ac.jp



関東学院大学

校訓 「人になれ 奉仕せよ」

ゼミの

文法問題

“解いてみよう”

「雨に降られさせるは正しいか、

その正誤について証明しなさい」

「車に ひかれさせる は？」



本学卒業生（比較文化学科2008年3月卒業）

比較文化学科は
2016年度で
開設15周年を迎えます

一流を、めざす

- 比較文化学科で日本語教員養成課程を履修し、実習先の日本語学校に就職の決まった卒業生からのコメントです ●

//スタートライン//

鈴木 美穂 さん（比較文化学科2015年3月卒業）



2014年6月下旬、私は教育実習へ行きました。そして10月、その実習先の校長先生からお話をいただき、在学中から日本語教師として働き始めました。日本語の教え方に悩まされたり、外国人学生からの面白い質問に笑ったりと、あわただしくも楽しい日々をおくっています。

日本語教師になりたいと思ったきっかけは、高校時代に留学生の友人からされた、日本語のささいな違いについての質問に答えられなかったことでした。日本人なのに答えられないことに驚き、日本語に興味を持ち始めます。

実習先では常に楽しみながら実習ができ、「自分に合うのはこの仕事だ!」と確信しました。

今、私はスタートラインに立っています。次の目標は「一流の日本語教師」です。教える中で、教える能力も日本語を考える思考力も不十分だと日々感じています。しかし、毎回その日の授業の反省をし、改善案を考えたりと、少しずつ前へと進んでいます。

（比較文化学科通信 21号より抜粋）